

2012年度第1回 <館林・板倉ツーリングのご案内>

(通算 35回)

今回は群馬県東方に足をのばし、館林・板倉周辺を見学します。名城館林城、彫刻装飾が素晴らしい雷電神社、分福茶釜の茂林寺など由緒ある史跡多数です。



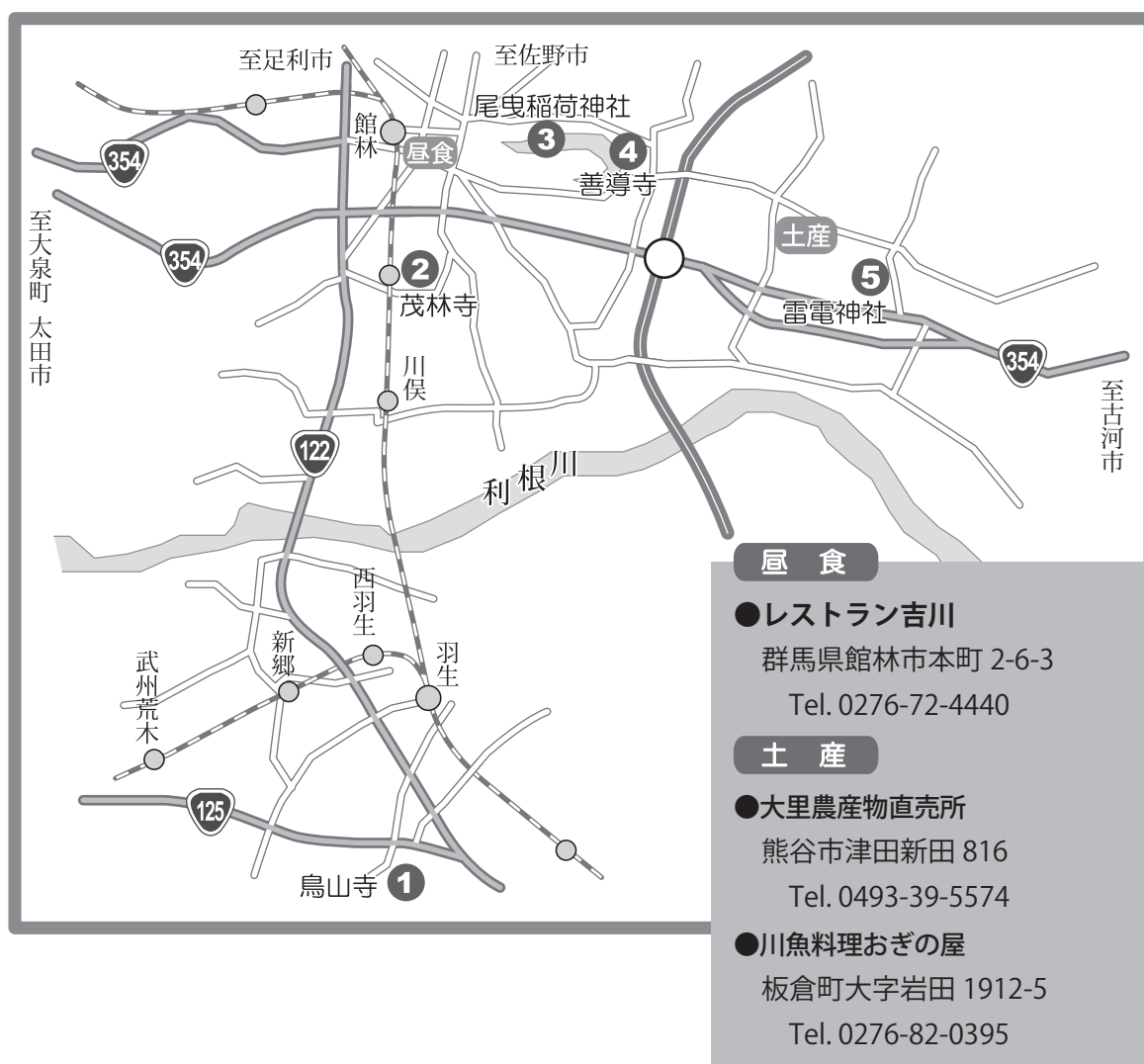
◎日 時：4月1日(日) 午前10時

◎集 合：東松山駅西口

◎会 費：2,500円+昼食

◎連絡先：LLP じもとメディア TEL&FAX 049 (257) 8739 (市川)

予定時間	見学場所
10:15	大里農産物直売所(土産)
11:00	島山寺(羽生市砂山) < 剣豪“岡田十松”墓 >
11:35	茂林寺(館林市堀工町) < 分福茶釜由来の寺 >
12:20	食事(レストラン吉川)
14:30	尾曳稻荷神社(館林市尾曳町) < 館林城ゆかりの地 >
15:05	善導寺(館林市楠町) < 榊原康政墓 >
15:40	川魚料理おぎの屋(川魚土産)
16:10	雷電神社(板倉町板倉) < 雷電総本社 >
17:15	東松山駅東口解散



1 島山寺

江戸後期に生きた剣士岡田十松の墓石があるお寺。
詳細は今井講師の話で…。

2 茂林寺

文福茶釜の寺として知られる名刹。観光の名所として知られ、門前に土産屋が並ぶ。

3 尾曳稲荷神社

館林城造成に深く携わったという伝承が残る神社。城の一郭として、その雰囲気を残す。

4 善導寺

城沼のほとりにあるお寺。徳川四天王の一人榊原康政三代の墓所がある
詳細は今井講師の話で…。

5 雷電神社

関東地方に点在する「雷電神社」などの総本社格ともいわれる。江戸期に彫られた彫刻など見所多数。

榊原康政の戦歴

榊原康政は、酒井忠次、井伊直政、本多忠勝とならんで“徳川四天王”と称される。武闘派を代表する猛将で、戦場の功名は数え切れない。

永禄三年以来、家康の側近として、同六年三河一向一揆、同七年吉田城攻め、元亀元年姉川合戦、同三年三方ヶ原合戦等々……。つねに家康と共に戦塵の中を駆け抜け、天正十八年関東入国のさい、館林十万石を与えられた。

三方ヶ原合戦では敗れても浜松城へ入らず、戦場の東西島へ退いた。武田軍が城に攻めかかれば、横合から突き入れる策略である。しかし、武田軍はすぐには攻撃せず、今日の一戦の大勝に酔い、敵は攻め寄せては来ないだろうと油断していた。そこを康政はわずかな手勢で夜襲を敢行し、時を同じく、城外の各所に潜んでいた徳川兵も鯨波をあげた。武田軍は周章狼狽し、犀ヶ崖の谷へ追い落とされて、多数の死傷者を出した。

天正十二年小牧長久手の合戦では、康政は戦略上、小牧城の重要性を説き、小勢をもって秀吉の大軍を迎え撃とうとした。もとより全員討死の覚悟である。康政は城が板塀であったので、岡崎から白土を取寄せて塗り上げ、本格的な城構えに見せた。城兵の士気はすこぶる上がった。

秀吉は小牧城の様子を見て、「わが大軍を引受けて、あの小勢で防がんとは、大胆不敵の剛の者よ。徳川にはよい家臣があることよ」と褒め称えたという。

康政の館林藩経営では、文禄四年に利根・渡瀬川の築堤を完成させ、慶長二年に武蔵から下野へ通ずる大道（日光脇街道）を開くなどの治績がある。

慶長五年の関ヶ原合戦後、吏僚派の本多正信・正純らと対立し、政治の表舞台から退き、同十一年五月十四日に歿した。享年五十九。



榊原康政肖像画
(重文) 榊原家蔵



榊原三代の墓所がある善導寺の山門
サイト「群馬県 WEB 観光案内所」より転載

榊原家の歴代

初代康政（やすまさ）

② 康勝（やすかつ）

③ 忠次（ただつぐ）

寛永二十年白河 14 万石へ転封し

六年後の慶安二年播州姫路 15 万石へ移る。

④ 政房（まさふさ）

⑤ 政倫（まさとも）

寛文七年越後村上 15 万石へ。

⑥ 政邦（まさくに）

宝永元年播州姫路 15 万石へ。

⑦ 政祐（まさすけ）

⑧ **政岑**（まさみね）

新吉原の三浦屋抱え第十代高尾を 2500 両で落籍し、
3000 両で吉原遊廓を総揚げした。不行跡を咎められ、
隠居を命ぜられる。

⑨ 政永（まさなが）

寛保元年越後高田 15 万石へ移封。

⑩ 政敦（まさあつ）

⑪ 政令（まさのり）

⑫ 政豊（まさとよ）

⑬ 政愛（まさちか）

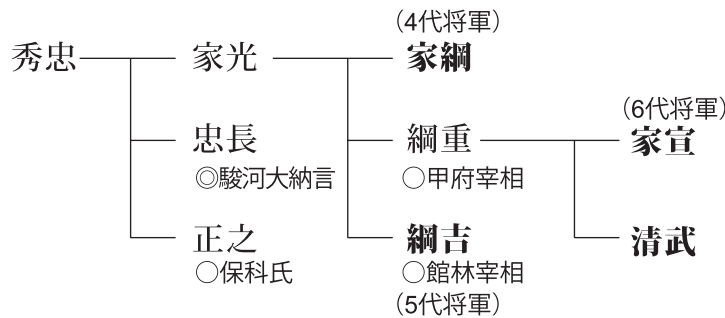
⑭ 政敬（まさたか）

館林藩主の変遷

	石高	移封先
榊原康政	10 万石	
榊原康勝	〃	
榊原忠次	〃	陸奥白河 14 万石へ
松平乗寿	6 万石	
松平乗久	5 万 5000 石	下総佐倉 6 万石へ
◎徳川綱吉	25 万石	五代将軍に就位
徳川徳松	〃	
◎松平清武	4 万 4000 石	
松平武雅	5 万 4000 石	
太田資晴	5 万石	
太田資俊	〃	遠江掛川 5 万石へ
◎松平武元	6 万 1000 石	
松平武寛	〃	
松平武厚	〃	石見浜田 6 万 1000 石へ
井上正春	6 万石	遠江浜松 6 万石へ
秋元志朝	〃	
秋元礼朝	〃	

- 館林藩はめまぐるしく藩主が入れ替わった。松平乗久の後に就封したのが、五代將軍となった綱吉である。綱吉は城主として二十年間、城の拡張整備や城下町の繁栄、河川の防水対策に力をそそいだ。しかし、綱吉はつねに江戸神田の館におり、在城はわずかに五日間にすぎなかった。

綱吉の將軍就任後は、四代將軍家綱の遺言で綱吉の子徳松が継いだ。が、五歳で病没し、松平清武が館林城に入った。この清武は家綱の弟綱重の二男で、兄家宣は綱吉の跡を継いで六代將軍となっている。簡略な系図を記せば、



- 清武は一時、家臣越智与右衛門の跡を継いだので、越智松平氏を名乗る。清武の子清方は幼少で死去し、尾張家の庶流松平義行の二男武雅が館林城主となったが、二十七歳で死去。それで、太田道灌の子孫太田資晴が陸奥棚倉から入封し、その子資俊の代に遠江掛川城へ転封となった。
- 太田氏に替わって館林城主となった松平武元は、水戸家別家の長沼氏に生まれたが、十三歳で松平武雅の養子となり越智松平家を継いだ。すぐれた政治家で、奏者番、寺社奉行と進み、宝暦元年八代將軍吉宗の懇命により**老中**となる。琉球や朝鮮使者来朝の事務に当たり、7000石の加増を得て6万1000石を領有し、安永八年病没した。武元の在職中は権勢をふるった田沼意次も遠慮していたという。武元の子武寛の館林在城は六年間にすぎなかったが、天明の飢饉には領内の藩米をひらいて飢民を救ったり、九十以上の老人を申告させて米粟を与え、領民に孝悌の道を奨励したという。惜しいかな三十一歳で死去した。
- 秋元志朝（あきもとゆきとも）は周防国徳山藩毛利家に生まれ、十二歳で出羽山形藩主秋元久朝の養子に入った。弘化二年館林城に入封し、6万石の領主となった。安政大地震を機に藩政改革に乗り出し、江戸詰の家臣邸を館林へ移し、一方学問所求道館を創設して文武を奨励した。文久二年、雄略天皇陵の修理に着手し、秋元家が587両余を献上して工事を完了した。幕末、長州征伐のさい、志朝はみずから京都へ上り、朝廷の内旨を受けて国事に奔走した。藩臣**岡谷繁実**を長州に派遣して、朝廷・幕府・長州間の調停斡旋に尽力した。が、長州兵が蛤御門の変を起こし、志朝は幕府に疑われて隠居を命じられた。
- 岡谷繁実**は館林藩の大目付・世子の侍講・中老を勤めた。明治以降は行政官を辞し、歴史研究に入り、『名将言行録』『日本全史』の名著を遺した。大正九年十二月九日歿。行年八十六歳。

美剣士・岡田十松

岡田十松吉利は明和三年(1765)、埼玉郡砂山村の郷士の子に生まれた。先祖は“小豆坂七本槍”の一人岡田助右衛門直教で、父は岡田又十郎利達といった。十松はその九代目である。

十三歳のときから、神道無念流を初代戸賀崎熊太郎暉芳門の松村源六郎に学んだ。二年後には松村の手に余るようになった。そこで松村は十松をつれて江戸へ行き、師匠の戸賀崎に託した。時に十五歳、背丈六尺もあり、性格は穏和で礼儀正しく物静かであり、しかも美少年だった。

三年後には目録を許され、他流試合にやってくる者には、ことごとく岡田十松が相手に出て、軽くあしらった。一度も負けたことがない。

天明五年、二十二歳で免許皆伝を授けられた。皆伝になる前、戸賀崎は郷里の十松の父親にそれを報せた。すぐに父の利達が出てきて、戸賀崎への礼はもちろん、先輩後輩を問わず門下一同を料亭に招待し、披露の宴をもうけた。その席上で利達は、十松に「恩師に三年間、お礼奉公せよ」と命じた。

戸賀崎はその後、機会あるごとに「さすがに武士の流れ、忝も立派だが、その父親もよくできている」とそう人に語った。

三年間、師範代をつとめた上で、独立し、神田猿樂町に**撃剣館**を開いた。のちに小川町に移る。挙措優美で美剣士の十松をひと目見ようと、連日、町家の娘が道場の窓へ押し寄せたという。

寛政七年、師の戸賀崎は麴町裏二番町の道場をたたんで帰郷することになり、江戸の神道無念流の後継者を十松ときめ、大名・旗本などの出稽古先を引き継がせ、



岡田十松墓石（羽生市砂山鳥山寺）

道場の弟子すべてを託して、郷里の清久へ帰った。

岡田十松の撃剣館は、江戸指折りの道場の一つといわれ、門弟三千乃至四千に及んだ。門弟中、もっとも傑出したのは斎藤弥九郎善道、鈴木斧八郎重明の二人で、ほかに水戸の藤田東湖、蕪山代官の江川太郎左衛門、渡辺華山などがある。

文政三年(1820)八月二十五日、五十六歳で歿した。牛込高田の宝泉寺に葬る。

memo



雷神神社の社殿

—次回予告—

群馬県高崎市（旧倉渕・旧榛名）見学

5月13日（日）午前10時 東松山駅西口集合

江戸時代末期の幕臣小栗上野介隠居地倉渕町権田を訪ねます。

またこの地には大和政権時に造成された古墳や、戦国時代の支城などもたくさんあります。

今回はその一端だけの見学となりますが、是非ともご参加よろしくお願ひします。

◆訪問予定箇所

- ・東善寺（小栗上野介墓所）
- ・上野国分寺跡・妙見寺
- ・箕輪城

※予定のため、実際伺う場所が変更される場合があります